

平成19年4月10日

新宿区長

おうち

法人名 特定非営利活動法人 みんなの

所在地 新宿区北山伏町2-1

（フリガナ）みしま ともひこ

代表者氏名 三島 知彦



事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第19条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1 助成対象事業

事業名	子育て支援コア仲間の愉快的週末企画準備ツアー
実施日時又は期間	平成19年3月3日（金）～5日（日）
対象者の範囲及び人数	新宿区内で子育て支援活動を実施もしくは意思している団体または個人からの参加者および当NPO会員の親子58人。魚沼市赤土地元協力者9人。計67人 内訳 大人：36人 子ども：31人
事業内容	自然に助けられた愉快的遊びや雑魚寝、自炊、温泉の協働体験から生まれる「知縁」の関係を、地域子育ての柱にしていく愉快的週末ツアー企画を提案しました。愉快的笑い声は大きな力を持っています。
具体的な活動状況	上記提案を子育て活動団体にお知らせするとともに、広く区報で区民の方々に広報。参加希望者には、事前説明会（2月4日）で、直接気になる家庭への介入は控えて、愉快的親子交流の場に巻き込みながら見守ることから改善が図られること；まず、愉快的交流を企画実践するスキルについて説明しました。 大型バスでの移動、ログハウスでの多人数共同自炊、雪上花火、温泉：そして、今回のメインプログラム「地元雪合戦の伝承」を実施しました。親が子どもに返り敵の旗を奪い合う側で、幼児たちも雪玉を敵の大人の体にぶつけていた愉快的遊び体験は大きな笑い声を生み、都会生活に返っても、笑いの余韻が残りました。 3月17日には、再会の笑い交流を図り、各地元や関係団体の自主企画ツアーへの話になりました。



事業の成果	参加者の違いを超えた交流 「子ども達の未来を力のある姿にするのに協力したい」「自分達大人も遊びたい」「子育てを愉快地頑張りたい」「初対面の子ども達が馴染みあい、自分のおうちとして大きな家を自由に遊びまわっていた」等の思いが集いあったツアーです。都市での子育て家族は、国籍、出身地方、年齢、学歴、職歴・・・数々の違いを前提とし、初対面が多い。 「伝承された遊び体験＝雪合戦」では、大きな笑い声を生み、「食わず嫌いの子ども達が笑顔で食べ始める＝食育テーブル」では大勢の食を管理するスタッフへの感謝、子ども達同士の関係が出来上がり年長の子ども達が幼児の面倒を診ています。都会の日常から離れたのんびりした時間は参加者から「うれしい」の声が聞こえた。 未来志向の快活な仲間が新宿区に住みあっている実感、都市での子育てに自然遊びを提案し、笑顔で迎えていただいた魚沼市での協力者との思いの交流は、知り合った縁「知縁」の輪を拡大し、支援の輪を拡げる。 参加 6 団体と個人参加者から、自立企画が始動 今回の応募参加は保育園、学童クラブ、学校、日本語学級、子ども劇場、そして、自宅解放で子育て親子の居場所「積み木の森」を提供している若いご夫婦の参加を得ました。 今回の企画準備ツアー参加後に早速、小学校の卒業ツアー、保育園卒園ツアーが企画進行しています。学童クラブ利用家族ツアーやシングルマザーツアーも企画準備されています。「積み木の森」利用の親子ツアーも構想されるようです。 ☆企画進行 4 団体：構想 2 団体（4 月現在）は当初 5 団体自立ツアーを目標とする今回事業は成果をあげた。 これらの参加家族が周辺の家族に声をかけ、我が家の子育てから我が地域の子育てに「知縁」の輪を拡げる活動に進んでいることは、大きな成果です。 地域社会への意識変革 同じ地域に住みあい、子どもを育てあう意識の成熟が大きな課題です。今回ツアー後の若いお父さんからの感想を引用します。 「今回の『みんなのおうち』の感想を率直に述べてみたい。まず、運営者の方々、参加者の方々に感謝している。参加してみても感想は「楽しい」のひと言である。子ども達にとっては、自然に触れられるということはもちろんだが、それ以上に様々な年齢の子ども達と触れ合えたという事が貴重であった。私にとっては今まで知らなかった「地域社会」を知ったという意味が大きかったと思う。そもそも、この企画に参加したきっかけは、妻が新宿区の区報で見つけたことに始まる。2 月の準備会（ミーティング）に参加したとき、「新鮮さ」と「違和感」を感じた。振り返れば、私が最初に感じた違和感は、企業社会の効率主義や指揮命令系統を地域社会に当てはめようとしたからだろう。企業社会のミーティングは「何かを決める場」であり、地域社会のそれは「共有する時間を楽しむ場」である。そもそも、企業社会と地域社会ではその目的や歴史が違うので、それを持ち込もうとした私が間違いであった。参加者の皆さんは優れており、家事をしたことのない自
--------------	---

分にとっては無力さを感じさせられた。私と違って地域社会を理解し、その楽しみ方を知っておられた。地域社会の活動はおしなべてまどろっこしく非効率的に感じるものであろう。しかし、それぞれ目的や使命が違うのだから、それは当たり前であり、そういう違いを楽しんだらよいのだと思う。今はまだ30代であるが、これから30年もすれば、死ぬまでお世話になる地域社会での活動を知ったということは有意義であり、楽しませていただいた。」

この若いお父さんは、即みんなのおうちのHPを立ち上げ、様々な運営提案をしてくださっている。地域社会の活動には、このような若い世代の創意が不可欠である。今回事業の成果は大きいものであった。

今回の参加団体以外からも参加希望がありながら日程が団体行事と重なっての不参加もありました。HPの整備や当NPO企画ツアーへの体験参加等で、ツアー企画スキルをお伝えしたい。

NPOみんなのおうちの活動は薬王寺学童クラブの父母会活動を主幹として立ち上がりました。主幹の幹から枝が伸び、葉が茂り、その緑陰に癒される子どもと親が増えていくことを願っています。

新宿区民の方々には、NPOみんなのおうちへの自主ツアー実施を「見える」形に整備しHPで発信し、地域での子育て支援活動の提案を今後も図ります。

「怖い大人もいるが、子どもを大切にする大人もみんなの側には、いっぱいいるから、安心して、のびやかに、育ってくれ」のメッセージを新宿区で育つ子ども達に送る事業は少しずつ認知されてきました。

2 助成対象事業費内訳（実績）

※ 1万円以上のものについては、領収書（写し可）を添付してください。

収入	経 費	積算根拠（内訳）		金 額
	団体負担金	NPOみんなののうち支出		28,232円
	参加費・資料代等	参加費★内訳書添付①		381,800円
	その他の収入			円
	協働推進基金助成金	助成金申請額 300,000円		
	計	710,032円		
支出（助成の対象になる事業費の内訳）	費 目	決算額	内 訳	
	会議費	5,500円	事前説明会2月4日（土）：ゆったりーの：2,500円 再会パーティー3月17日：同：3,000円	
	宣伝費	16,304円	イラスト集6,970円 CD-ROM他2,934円、インク他6,400円	
	リース費	円		
	消耗品費	66,121円	雪遊び、雪合戦道具、かまくら用七輪や炭購入 雑費★3点領収書添付②	
	謝礼	42,000円	パン教室講師料：（2人+1人）×5,000円：助手2×3,000円 遊びボラ謝礼：7人×3,000円	
	材料費	31,690円	パン教室（2回）材料費：19,353円★内訳添付③ かまくら遊び用材料費：12,337円★内訳添付④	
	交通費	254,900円	大型バス1台（2人運転手、高速料金）19万円★領収書添付⑤ 乗用車3台（高速料金5,300円×2回×3台、ガソリン代9,400円×3台） 神湯温泉マイクロバス送迎 3,900円 地元旅館送迎車 1,000円	
	その他諸経費	197,584円	保険12,584円：東京都社会福祉協議会52人×242円 ★加入書添付⑥ 暖房費27,500円：55人×500円：施設利用料：157,500円★暖房費&利用料は規約書添付⑦	
	助成対象事業費（小計）	614,099円		
	余 剰 金	円		
	助成対象外事業費	95,933円	食費：金曜日深夜食・土曜日朝食・昼食・夕食 日曜日朝食・昼食	
	事 業 総 額		710,032円	

3 助成事業の成果と課題

評価のポイント	自己評価
事業を計画した当初に決めた課題について、どこまで達成できたか。	今回の事業目的は達成 ★ 6団体企画または構想中 自立企画ツアー5団体を目標とした今回の準備ツアー後、4団体は企画中、2団体は構想中。 新宿地域で子育て支援を実施または、実施を考えている団体や個人の方を広く公募し企画準備ツアーに参加していただく課題を設定しましたが、実際活動している方々は、個人の生活と地域活動とで多忙を極め、当ツアー実施と自団体活動が重なり不参加との例が数件あった。イベントの多い3月設定が原因かとも思われた。 新宿に住みあう区民が子どもを通して知り合った縁「知縁」を成熟させ、新宿で育つ子ども達に「守られて育つ安心感」を持ってほしい。当NPO設立趣旨の実現に向かって、牛込地域から、新宿区内に「愉快的親子遊びの輪」の点在が図られ始めたことは課題達成と評価できる。 H19年度は各団体ツアー時に必要とされる支援をNPOみんなのうちは実施予定。
地域にどのような効果があったか、又は今後見込まれる効果は何か。	「知縁」「愉快的遊び親子体験」がキーワードの子育て支援活動の新宿区内点在化 新宿区の牛込、薬王寺地域から発信しているNPOみんなのうちは活動が、落合、神楽坂、大久保、早稲田と地域拡大を図ることが出来た。 今回参加者が立ち上げてくれたHPを活用し、新宿区又は東京都全域での子育て支援の輪の拡大を図る。都市住民の「知縁」は多くのスキルが集まる。このことは、新宿区の大きな特色です。 特に若い区民の地域活動への参加は期待されている。子育てを始めた若い父母がみんなのおうちツアーをきっかけとして、地域生活に目覚める仕組みを進めたい。 今後、多様なスキルの出会いから、都市に住みあう近隣者の付き合いに「自尊」の意識が生れる予感を持つ。 「故郷文化との交流」は魚沼市協力者から提案 今回は「地元伝承雪合戦」を遊びプログラムの中心にした。地元の子供達への伝承もなくなった遊びをNPOみんなのおうちで再生、伝承を図ります。「カマクラの七輪焼き」と「雪合戦」は今後冬ツアーの遊び定番として伝承。 今年の夏の最終週末には、地元からの協力提案を受けて外国籍親子参加の「盆ダンス」を予定。

	今回ツアーで飛び入りされた地元Aさんからは、自宅の蔵で手打ちうどん振る舞いの提案。 新宿区で育つ子ども達に「第2の故郷」を提案する企画が始動しはじめた。魚沼市が持つ「交流」の理念と新宿で子育てをしている親の「自然体験をさせたい」意志が今後どのような形で子ども達に提案できるか？創作していこうとする流れそのものが、今回ツアーの効果とも言える。
新たに気づいた課題は何か。	大人自身が遊びたがっている。 雪合戦は魚沼市赤土部落に伝承されていた形を基本としました。赤土区長、副区長、隣のおじさん2人が師範でした。雪をほりあげた陣地山に旗を挿し、3組で奪い合います。大人（60歳台）から2歳までの50人以上が参加しました。雪山にすぐるおばさんをおじさんが引っ張りおろし、おじさんが奪った旗におばさん達が跳ね上がって奪い返しそうとする。そんな大人の姿を最初は呆然と見ていた幼児ですが、そのうちに雪を抱えては、敵の大人にぶつけていました。そのような戦いを雪は優しく包み込んでいた。 自然の中で大人が遊ぶ。その大人の姿が子ども達に何かを大きく与えていく。 育てる大人と育つ子どもの関係の歪みは、親殺し、子殺し事件の多発報道で周知です。子ども達の可愛い笑顔が親を癒し、大人の大きな笑い声が子どもに力を与えることが、今回の雪合戦で実感できた。伝承された空き地遊びをみんなのおうちの自然遊びと共に提案したい。 自立ツアー企画時の悩み ☆ 同地域であっても、家族の経済格差は大きい。今回ツアー参加数家族が地域で子ども達の育ちの見守りをする事から、より大きな効果を持つツアーの協働体験を持つことで、「知縁」は深まっていくことが実感されても、経済的な困難さを抱える家族には負担を強いるツアー企画の提案は出来ない。この悩みは大きく、参加団体が自立ツアーを企画するための支援は、スキル伝授とともに、資金援助も必要である。この課題支援のためには、NPOとして助成申請を図ることが新たな課題になった。 H19年度助成安価参加費設定予定 ☆ H18年新宿区コミュニティー助成を筆筒出張所から受け、安価参加費でシングルマザーツアーを実施した「頑張るゾーさんの会」ツアーの継続実施支援のために申請した麒麟福祉財

	団のH19年助成30万が認められた。今年のシングルマザーハロウィンツアーは大型バス&安価参加費が実現予定である。前回参加者からプロジェクトを組み、より多くの1人親家族の「愉快的親子遊びの協働体験」を実現する。 ☆ H17 年度新宿助成「外国籍家族と地域家族の愉快的週末ツアー」実施時に気付いた課題『子ども達の学習支援』は、新宿協働事業提案にまとめて応募し、認められてH19年度は2児童館での夜の学習時間を設け、学習指導と居場所提案を子ども達に、また家族には、夏冬「みんなのおうち」の遊び体験ツアーを計画中、夏ツアーには地元協力者から盆踊りの器材提供の申し出があり、国際大学にも依頼し、国際交流盆ダンスの実施にむけて準備中。学習支援応募中学生や6年生からの提案を基礎にして、彼らに達成感をもたらす仕組みを模索支援する。 以上は確定しているが、 今回参加団体その他自立ツアー企画団体資金への参加費安価設定協力を図るために、 H19 新宿NPO助成応募申請準備中
理解者や支援者が広がったか。	魚沼市赤土地域協力者の拡大 ☆ 雪合戦：地元赤土部落の区長&副区長そして、近所のおじさん達の話から地元子ども達に外遊びは伝承されず、雪合戦は大人の昔語りになっていたそうです。地元伝承遊びの再生を図る支援を受ける。新宿から参加した親子と一緒に雪合戦に興じた愉快的体験から、夏には盆踊りの提案があった。より多くの理解者に出会う予定。 ☆ 飛び入り理解者：ツアー趣旨に賛同して当日参加のAさんは、自宅の蔵を解放し、手打ちうどんの振るまいの申し出がある。しねり弁天の祭参加の提案も受け、支援者として今後も提案支援の約束。 ☆ 須原スキー場では、休憩場の無料提供や歓迎を受ける。 新宿区内理解者及び支援者 今回の事業は区内に当NPO活動趣旨への理解者、支援者を拡大する目的を持っていた。目的は達成した。H19自立ツアー実施でツアー体験者が、区内に散在し始め、活動の理解者を増やしている。自立したツアー実施はより多くの体験者、理解者を得るだろう。特に若い子育て家族からの賛同は頼もしい支援を得た。

	今後の理解者及び支援者の拡大を図る 具体的な支援者の増加は今後のNPO活動の実践にかかっていると判断し、「見える活動」とNPOの「責任性」を柱に活動を継続する。 HPの整備により、多くの賛同者を得る努力をする。 また、新宿区登録NPOの活動について、区報に掲載されるように新宿区に依頼し、NPO企画ツアーへの参加を募る。 ログハウスメンテナンスや毎年の雪かき経費への資金支援者が新宿区内から申し出て頂けるのを夢想している。
事務局の執行体制は十分だったか。	「見える」ツアー実施 参加者のメーリングリストを作成し情報交換しながら「見える」ツアーを図った。 当NPO会員、スタッフも多忙な子育て家族であり、顔をあわせての打ち合わせ会議が困難でメールでの連絡に終始した。 顔を合わせて会議でのシュミレーションが欠けていたことが原因と考えられ、メール文章だけでは、細部の共通認識が形成にくいことが判明した。その結果、バスポイントでの積み残し1家族があり、次のポイントまで、協力者が車に乗せて移動するトラブルがあった。 今後、多忙な個人生活の中で、NPO活動の「責任性」を、どのように、自分達の生活に位置付けていくのかが事務局スタッフ全員に問われた。経理、食、進行この3分担各々にも参加者の「見えてからの参加」が課題として残った。
今回の事業を発展させた新たな事業としてどのような事業が考えられるか。	魚沼市役所や有志との話合いから「第2の故郷で遊ぼう」を新宿区内の親子に提案する事業企画プログラムは魚沼市協力者からの提案を受ける例★昔語りの夕べ ★こしひかり刈り取り後の田んぼ遊び ★蛍狩りやカブトムシとあそび ★みんなの畑おたより（HP） 畑野菜でお料理ごっこ ★どろんこ遊び ★雪合戦：かまくらごっこ 新たな事業案 1 自立企画ツアーへの支援 今回参加者から「多くの人達を誘うのには、参加費負担を軽減したい」との声が多い。気になる家族に気軽に声をかけるためには、親子で1万円。{大人1人増加で5,000円加算、子ども（小中学

	生) 1 人増加で 3,000 円加算、幼児 (2 歳以上) 1 人増加で 2,000 円加算} の安価参加費が望まれる。この声を実現させるために、そのための資金を N P O みんなのおうちが 19 年 N P O 助成申請を新宿区に提出予定。 2 N P O みんなのおうち支援ツアーの継続 外国籍家族、一人親家族等、共有する課題を持ち合う仲間には、各種助成を申請し、安価な参加費設定企画ツアーを提案努力する。 3 19 新宿 N P O 協働事業「外国籍中学生の学力支援」夏の多国籍交流ボンダンス開催：冬の国際雪合戦参加：これらの活動への新宿支援者及び魚沼支援者を募集し、理解者と支援者を増大する。
その他	新宿区民の子育て支援を主に活動し、新宿区登録 N P O として、今回の助成イベントは区報に広報され、参加応募を受け、実施できました。 しかし、新宿区からの助成ではない、例えば、キリン財団からの助成や、助成を受けていない企画ツアーのご案内を区報に載せては頂けないでしょうか？ 3,000 円以上の実費負担が必要なイベントでは、区報に載せないとの情報があり、困っています。新宿から新潟までの移動には、交通費負担が大きく参加費負担は 3,000 円以内はありえない。今後新宿区で検討していただきたいと思います。

4 活動の成果

* 事業の成果物 (冊子など) 又は、事業の開催時の写真など提出できるものがある場合は添付してください。

* 参加者の意見なども報告してください。